
Emblem 黒獅子の紋章

ノラ犬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Emblem 黒獅子の紋章

【Zコード】

Z69081

【作者名】

ノラ犬

【あらすじ】

剣と魔法の世界ではなく、紋章と変化と魔法の世界、ビースター
ア。

その世界に生きる者の身体には、紋章が刻まれる。

炎の紋章
狼の紋章
剣の紋章
果てにはペンの紋章まで。

その紋章の意味を、その世界の人々は知らなかつた。
ある少年がその本領を發揮するまで

胸に獅子の紋章を刻み、獅子の如く金色の髪を持つ。
人は彼を刻印者、「黒獅子の紋」と呼ぶ。

「力を持ちし者は、我が前に出よ」

彼の言葉は、大地を揺るがし人々の心を動かした。

今、獅子の咆哮を耳にする。

初戦

カラソカラソ

夜の酒場、人々の活気は最高潮となり、夜半と言えどその大声は途絶えるところを知らない。

人々の関心は目の前の友人と酒、博打にばかり絞られ、先刻店に足を踏み入れた幼さの残る金髪の少年になど向けられる事はなかつた。

「おい、坊主。こゝはおっさん来る場所だぜ？お子様は帰りな」

酒場の主はそんな少年に手を振り、帰れと身振りで示す。

その視線の先には、十代も半ば……もしくはそれ以下の男の子が立っていた。

「……ねえ、マスターさん。こゝに依頼仲介所つて無いのかな？」

見掛けのみならずその仕草までもがあざけない少年は、構わず酒場の主に質問を浴びせ掛ける。

「はあ？ 依頼仲介所だあ？」

お前みてえなお子様じや何もできねえで終わりだよ。この街の仲介所はこゝだ

「あ、そつなんだ。あの、討伐依頼とか来てないですか？」

酒場の主の嫌味に耳を貸す事無く、少年は田をキラキラさせながら問つた。

「来てるつむぢや来てるナゾよ……。やめとナッて、ガキが出来るようなもんじやねえ依頼だからな」「

渋る主に、ねだる少年の押し問答。

「大丈夫だよ、討伐ターゲットは何?」

身を乗り出す少年の鼻に掛かる主のタバコの灰煙が、かたくなに拒み続ける。

「後最低五年経つてからまた来な」

「じゃあーじやあせ、僕が強いつて証明を出来たら良いの?」

そう言われ、うろたえる酒場の主に助け船はどこからも出ず、少年は勝手気ままに振る舞つた。

「ねえおじさん達!誰か僕とケンカしようよ、なるべく強い人が良いな!」

酒場を一声で静め、その場にいる者全員の視線が少年へと集中する。

その脇では坊主が慌てふためいて少年を睨み、何の意味は無かつた。

「おう坊主ー威勢が良いじゃねえか、どうだ俺と一勝負やってみつかあ？」

少年のケンカをまず聞いたのは、一田。強そうだと分かる筋骨隆々のヒゲ面だった。

「うざー負けても諦めんなよーじあ……あー、こ、はじめー」

黒獅子

丸いテーブルが次々と片付けられ、即席のリングが作られる。ロープを纏っていた少年は突然ロープを脱ぎ捨て、その下に着ていたノースリーブのベストの胸を開けた。

その左胸には、風になびくタテガミを持つ獅子の紋章が刻まれている。

「坊主、その落書きでなにをしようつてんだよ！容赦はしねえぜ！」

堅牢な拳を構え、ヒゲ面は少年へと殴り掛かるべく足を踏み出した。その時に少年は、一言を発するのみ。

「氣高き獅子の心、黒獅子の魂よ！」

胸に手を当て、何かを宣言するかの様に堂々とした態度で。直後、その場にいたのは先程までの少年では無かつた。

「なんだ……お前は……！」

黒いタテガミ、灰色の身体、尾の先につく房は、縦横無尽に舞う。

その場にいたのは、獅子が立ち上がった様な風貌の「獣人」だった。

「来いよ、俺を倒して見な。青一才」

戦いの幕は、今上がるばかりである。

舐めた態度で煽られ、ヒゲ面は赤い顔を更に紅潮させて拳を握る。

「気味の悪い黒ネコ野郎め！！」

振りかざしたそのたくましい腕は、少年と呼べなくなつた「黒獅子」の華麗なバックステップにより避けられた。

「その程度かよ。俺もナメられたもんだ」

暴言に舌打ちをプラスして、黒獅子は尻尾を舵取りに片膝をつく。その眼光は相手の僅かな、ほんの僅かなスキを突かんときらめいている。

「クソガキがあああー！」

ヒゲ面が体勢を整え再度拳を構えた時、黒獅子の瞳が揺らめいた。異常な程の瞬発力で瞬時に踏み込みをし、初速に尻尾の舵取りで回転をかける。

次にヒゲ面が見たのは、酒場の薄汚れた天井だった。うめく間も無く、訳も分からぬままヒゲ面は気を失い、周りの外野がわめき立てる。

「なんだ今、見たか！？」

「バケモノだ……！」

「殺される……」

黒獅子はヒゲ面に、神速の如き速度で回転の効いた回し蹴りを食らわせたのだった。

「紋章を落書き呼ばわりするガキに、情け容赦など必要無い」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6908i/>

Emblem 黒獅子の紋章

2010年10月10日10時17分発行